学校番号	413

令和８年度　国語科

教科	国語	科目	古典演習	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書	自主教材						
副教材等	プレミアムカラー国語便覧・プレミアムカラー国語便覧準拠ノート（数研出版） 読んでみて覚える重要古文単語 315（桐原書店） 読解をたいせつにする体系古典文法九訂版・古典文法要点整理ノート改訂版（数研出版） 漢文の習得三訂版対応 句形トレーニング（浜島書店） 大学入学共通テスト対応版 LT 古文２（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・1・2 年生で学習してきた古典の復習及び発展的な内容を取り扱います。
・有名な古文と漢文の作品に親しむとともに、正しく心情等を理解するために語彙力や文法の知識をしっかりと身につけてください。
・予習として必ず本文を読んでおきましょう。また、わからない単語は辞書を引いてきてください。自主的に学習することを習慣づけましょう。
・提出物については必ず期限を守りましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能をさらに身につけるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解をより深めることができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力をさらに伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについて理解し、知識を身につけている。	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、古典の作品や文章において先人の思想や感情を読み取り、人間・社会・自然などについて考察している。	言葉で伝え合う力を進んで高めようとするとともに、古典に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
1	物語(一) 文法:用言、助動詞 ［教材］ ・「渚の院」他(伊勢物語) ・文法「動詞」「形容詞・形容動詞」「助動詞　過去・完了」	a: ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として用言・助動詞について文語のきまりを復習し、理解する。 b[読]: ・物語の中で和歌が果たしている役割を理解する。 ・登場人物の心情理解を中心として、物語の展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 c:歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って当時の人々の思いを捉えようとしている。	課題の提出 定期考査	発問評価 指名音読 定期考査 課題の提出	授業態度 提出物
	評論 文法:助動詞 ［教材］ ・「俊頼髄脳」他 ・文法「助動詞　受身・使役・断定・推量・打消」	a: ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として助動詞について文語のきまりを復習し、理解する。 ・和歌の修辞法について理解する。 b[読]: ・歌論を読み、当時の人々の和歌に対する考え方を的確に捉える ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 c:歌論を通して、和歌に対する認識を深め、自分の考えを深めたり広げたりしようとしている。	課題の提出 定期考査	発問評価 指名音読 定期考査 課題の提出	授業態度 提出物
2	物語(二) 諸家の文章 文法:助動詞・助詞 ［教材］ ・「村上天皇と中宮安子」他(大鏡) ・「答陳商書」 ・文法「助動詞　推定・推量・願望」「助詞　係助詞・格助詞・接続助詞」	a: ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として助動詞・助詞の文語のきまりを復習し、理解する。 ・漢文を訓読するための基礎知識を復習し、理解する。 b[読]: ・歴史物語という文章をふまえて、内容や展開を的確に捉える。 ・たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 c:歴史物語や漢文に積極的に親しみ、学習課題に沿って当時の人々の思いを捉えたうえで、自分の考えを深めたり広げたりしようとしている。	課題の提出 定期考査	発問評価 指名音読 定期考査 課題の提出	授業態度 提出物
2	物語(三) 評論(二) 文法:助詞・副詞・敬語 ［教材］	a: ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として助詞や副詞、敬語について、文語のきまりを理解する。	課題の提出 定期考査	発問評価 指名音読	授業態度 提出物

	・「物の怪の出現―葵の上の出産」他(源氏物語) ・「源氏物語玉の小櫛」 ・文法「助詞　副助詞・終助詞」「副詞」「敬語」	b[読]: ・登場人物の心情理解を中心として、物語の展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・源氏物語の注釈書を読み、作者の考える『源氏物語』の本質を理解する。 c: ・物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って登場人物の心情を捉えようとしている。 ・学習課題に沿って異なるテクストと読み比べ、自分の考えを深めたり広げたりしようとしている。		定期考査 課題の提出	
3	物語(四) 文法:識別 [教材] ・「はいずみ」(堤中納言物語) ・「土佐日記二十三段」、「大和物語第四十九段・第百五十七段」 ・文法「識別　なり・に・せ・し・る・なむ・らむ・ぬ・ね」	a: ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・文語のきまりを理解する。 b[読]: ・登場人物の心情理解を中心として、物語の展開を的確に捉える。 ・他の歌物語の内容と比較することにより、内容をより深く解釈するとともに、他の歌物語との違いも理解する。 c: ・物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って登場人物の心情を捉えようとしている。 ・学習課題に沿って異なるテクストと読み比べ、自分の考えを深めたり広げたりしようとしている。	課題の提出 定期考査	発問評価 指名音読 定期考査 課題の提出	授業態度 提出物

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　(　0　)時間

・書くこと　…　(　0　)時間

・読むこと　…　(　７０　)時間